

友愛



機関紙「友愛」

発行所

(財)日本友愛青年協会

〒113-0033 東京都

文京区本郷 4-25-9-404

TEL 03-5684-3188

FAX 03-5684-3186

発行人：川手正一郎

編集人：萩原直三

隔月一回 10日発行

講読料

年間 3,000円

印刷所：平野プリント



友愛社会を目指して

衆議院議員(民主党幹事長代理)

鳩山 由紀夫

日頃から友愛運動にご理解を頂いている皆様、明けましておめでとうございます。

「友愛運動」の提唱者であるクレーン・ホフ・カレルギー伯は、その『自由と人生』の邦訳発行(鳩山一郎訳)で、「人間の基本的価値を尊ぶ、『友愛社会』建設のために「不退転の勇氣と真美を求むる精神」をもって進むべき役割と責任が、日本にはあると語りました。汎ヨーロッパ体制の構築に腐心されている中で、「母の国、美しき国・日本」にその精神的価値観を求めたものと思われまします。しかし残念ながら、世紀末を迎え、我が国に対する伯のその思いは、まさに幻影と化そうとしている



何処へ」です。金融機関や高級官僚の不幸事が象徴するように、物

れにもかかわらず、政府・与党は「コップの中の覇権

と心のバランスがこれほど崩れて、いる惨状を誰が想像し得たでしょう。

争い」に精力を費やす毎日です。私たちはもう一度自分をみつめ、自立と共生の精神のもと、新たな目標を設定し、チャレンジしなくてはなりません。弟邦夫と共に「友愛の心」をもって「不退転の勇氣」を奮い起し、「真美を求むる精神」をさらに鍛錬し、困難に挑みます。皆様の今年一年がご健勝でありますようお祈り申し上げます。



果断に行動する政治に

衆議院議員(民主党副代表)

鳩山 邦夫

新年あけましておめでとうございます。

(財)日本友愛青年協会の皆様には、益々お元気で新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご指導とご支援を賜り、年頭に当たり、改めて厚く御礼申し上げます。

さて、私どもの民主党も昨年四月の統一拡大の道を歩み始めることができ、私の年来の夢である「もうひとつの政権政党をつくる」目標に一步近づくことができました。自社なれあいの「五十五年体制」を打ち破り、政権を担える二大政党が互いに競い合っており、責任ある政治状況を作るために民主党を誕生させました。先の参院選で



く政権交代の受け皿は民主党だと、

会、行政のあり方にメスを入れていく所存でございます。皆様の日々

の躍進、金融国会での我が党の活躍を通じて、国民の皆様によりや

した。

今年こそ春の統一選、そして来るべき衆議院選挙に必ず勝利して、政権交代を実現したい。これが新年第一の私の目標であり、使命だと考えております。

景気の回復を最優先に、沈没しかけた日本国の再生のため、完全に行き詰まった今日の状況からの脱却を目指し、経済、社会、行政のあり方にメスを入れていく所存でございます。皆様の日々

本年もよろしくお願いいたします。皆様のご多幸をお祈りいたします。

平成十一年 元旦

(財)日本友愛青年協会

理事長 鳩山 安子

頌春



鳩山威一郎先生五年祭

高潔な遺徳を偲ぶ

去る十二月十九日(土)の午前八時三十分より、谷中・鳩山家墓所に、威一郎先生の五年目の墓前祭が厳粛な式に執り行われた。当日は、安子夫人、長女和子さん、由紀夫・邦夫両代議士他、石橋共立学園長、川手鳩山会館館長、石田衆議院議員、小川参議院議員及び中山都議、西条都議、煙山区議等の地元の方、また邦夫先生事務所、由紀夫先生事務所、友愛婦人会、鳩山会館、「友愛」など、威一郎先生ゆかりの皆さんで、先生の遺徳を偲んだ。司会はなんと邦夫代議士が務められ、ユーモアに富んだ進行で、



墓前祭(谷中墓地)

まず安子夫人や和子さんから深い感謝の挨拶があった。由紀夫代議士や邦夫代議士からは、皆さんへのお礼の言葉と共に「オヤジの誠実・清廉な精神を受け継いでいく」旨の決意が述べられた。また石田、小川議員からは、先生や友愛との出会いなどに触れた挨拶があった。この季節にしては比較的温暖な朝だったので、事務所まで用意された恒例のおにぎりやみそ汁などを摂りながら、安子夫人や両代議士を囲んで、しばしなごやかな御供養のひとつを過ごされた。

この日に先立って、十二月八日(火)午後六時より、赤坂プリンスホテル「五色の間」にて、「鳩山威一郎五年祭」が、中曽根元総理、渡部衆議院副議長、小沢辰男元厚相、宮沢蔵相、森幹事長、辰沢元経企庁長官ご夫妻、藤井元蔵相など、生前威一郎先生と親交のあった政界、官界、財界、マスコミなど各界の約八百人を超える方々がお見えになる中で行なわれた。

まず、安子夫人の衷心からのお礼の挨拶があり、続いて中曽根元総理が「同期・鳩山君とは内務省、大蔵省でよくやりあった」などの思い出を語りながら、「鳩山兄弟にはトップリーダーを目指して欲しい」と期待を述べた。また、渡部副議長は、「昭和二十八年五月の『友愛青年同志会結成大会』で、学生代表として鳩山一郎先生を激励したのが鳩山家とのそもそもの縁で」と会場を笑わせながら、「これからは鳩山兄弟総理実現のために働いていく」との温かい激励の言葉を述べた。小沢辰男先生は献杯の音頭をとった。

こうしたご挨拶を受けて長男・由紀夫代議士は、「過分な期待ではあるが、地道な努力を重ねながら、それに報いるよう努力したい」旨のお礼の言葉を述べた。続いて立った次男・邦夫代議士は「見かけで人を判断しないように。兄と違って権力に淡泊な私としては」と、いつもの楽しい「マクラ」を振りながら、今日の政治の混迷

ら、それに報いるよう努力したい」旨のお礼の言葉を述べた。続いて立った次男・邦夫代議士は「見かけで人を判断しないように。兄と違って権力に淡泊な私としては」と、いつもの楽しい「マクラ」を振りながら、今日の政治の混迷



安子夫人、和子さん、両代議士

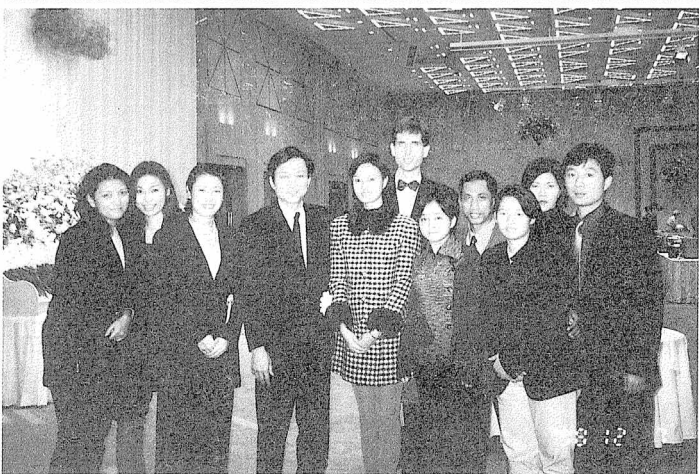
第十一回友愛国際青年会議

アジアの青年と友情を促進

去る十二月二日から十二月九日まで「第十一回友愛国際青年会議」(文部省補助事業)が開催された。今年は「私たちの文化を創造しよう」というテーマのもとに、インドネシア、シンガポール、タイ、中国、韓国、オーストラリアの六カ国から八名の青年を招聘した。まず、第一日目は、友愛学生部や友愛OBを交え、元朝日新聞ヨーロッパ総局長の久保田誠一・東京純心女子大学現代文化学部教授から、日本と諸外国の文化の違いについて講義を行っていただいた(於・鳩山邸離れ)。自由討議では、日中のいわゆる「歴史認識と謝罪問題」などにも話が及び白熱した勉強会になった。

迎夕食会」が開催され、長田本財団事務局長の歓迎の挨拶のあと、大広間いっぱい集まった友愛メンバーで心からのもてなしを行った。来日中の天津音楽大学教授の孟先生(現千葉大学研究員)による琵琶の演奏の中、あちこちで「友好の花」が咲いていた。

その後の日程は「江戸東京博物館」見学や文部省を表彰(高木生涯学習局青少年課長補佐)、友愛学生部出身の若手官僚や学生部とで、アジア経済の状況や青年の意識や平和に果たすべき青年の役割などについて、長時間にわたって討論した(於・国立教育会館会議室)。また富士・箱根方面への旅行も実施した。さらにはNHK放送センターの見学、国会財団評議員の小川勝也参議院議員との懇談(国会院内)があり、夜は鳩山威一郎先生の五年祭に特別参加し(於・赤坂プリンスホテル)、鳩山安子理事長、鳩山由紀夫代議士、幸夫人、邦夫代議士・エミリー夫人・長男太郎



由紀夫代議士を囲んで

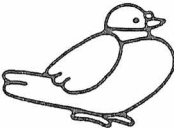
長時間について討論した(於・国立教育会館会議室)。また富士・箱根方面への旅行も実施した。さらにはNHK放送センターの見学、国会財団評議員の小川勝也参議院議員との懇談(国会院内)があり、夜は鳩山威一郎先生の五年祭に特別参加し(於・赤坂プリンスホテル)、鳩山安子理事長、鳩山由紀夫代議士、幸夫人、邦夫代議士・エミリー夫人・長男太郎



孟先生の琵琶



小川議員と懇談



TEL. 03-3253-7581

■友愛クラブ第349回

笑う門には福来る

—古今亭寿輔師匠を迎えて—

去る十二月九日(水)に、落語家・古今亭寿輔師匠をお招きして、第三四九回の友愛クラブの例会が開催された(キャピトル東急)。寿輔師匠の次々と繰り出す小話や、落語界の裏話で、いつもの例会と違って「一年忘れ大爆笑大会」となった。その「噺」も、現代社会を鋭く風刺し、それを幾分かの笑いごとで包んでいるので、一泊おいてから笑いが出るという感じであった。さすがに「噺のプロ」であった。

いつもは会社の経営や仕事のノルマで頭を悩ませている会員の皆さんも、この時ばかりはすっかり笑いのとりこになっていた。

また、今回からは新会員として福田八州雄氏(藤田幸久議員秘書)と、柳沢教子氏(故柳沢定勝連盟役員夫人)が参加してくれることになった。

なお、十一月十一日の「友愛クラブ」(第三四八回)は、日本共産党政策委員長・筆坂秀世先生をお迎えして行った。

賀正



古今亭寿輔師匠

一級建築士事務所
株式会社 栄建築研究所

取締役所長 山崎 榮

(財)日本友愛青年協会監事

公認会計士
税理士
不動産鑑定士
奥住 壽

技建開発株式会社

代表取締役 中川 治男

野村カルチャーアカデミー

主宰 野村 明美

中国瀋陽大学客員教授

館長 戸来 勉

有限会社 嶺岡工機

社長 川辺 辨

株式会社 近藤組

代表取締役 近藤 宗義

(財)日本友愛青年協会評議員

大川 邦夫

(財)日本友愛青年協会評議員

武田 紀念男

(財)日本友愛青年協会評議員

芳賀 大輔

エヌ・アイ・サービス株式会社

常務取締役 長田 正太郎

(財)日本友愛青年協会事務局長

(財)日本友愛青年協会評議員

萩原 直三



賛助会員募集のお願い

「友愛」の活動・事業を支えてくださる賛助会員を募集いたしております。一口・二万円以上です。よろしくお願いたします。

「郵便振替口座」
(財)日本友愛青年協会
0013012123095

静和

♥この日本は、まだトンネルの中にいる感じがします。そして、マスコミで報道される情報のことごとくは、「状況が悪い」というものだらけです。どこまでいったらこのトンネルを抜けられるのだろうか。ときどき「抜けられそうですよ」という論調があると、他のマスコミは「そんなにはずかしい」という合図になる。そうしたマスコミのあり方にはいささかウンザリします。♥マスコミ自体が「自呪」されていて、どこかいい点を報道しようとする、これはマスコミの風上にも置けないと思っているのでしょうか。ちょうど日本が第二次世界大戦に突き進んだときに(言論統制があったとはいえず、熱病に侵されて、「提灯」を持ったようにです。こうした時代だからこそ、先見性を持ち「自呪」を自ら解き放つ姿勢を持った勢力の台頭が望まれます。♥痩せても枯れても日本は世界第二位の経済力を持ち、発展途上国のように飢え死にする人もなく、裕福な生活をしているのが実情です。ただ、将来に不安を持っているのです。これだけの国力の基盤を持っているのです。政治家が正直に慎重かつ、自信を持って、将来の安心と平和を約束することにより事態の好転を図れます。♥そのためには、国民も自分たちのいい所を認めることです。ここが悪い、ここが不安だという言葉によって「自呪」され、ますます自信を失いかねません。ともすると責任を他に求めがちですが、いい所を認め替わながら、自信を取り戻す努力こそ、希望を膨らませる源でもあります。新しい年は、胸を張って進む「気分転換」の時でもあります。